

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2025年6月25日(日)

主 題:「みことば前に生きる」

—従 順—

聖 書: 第2ヨハネの手紙12、13節

### はじめに

・おはようございます。

- ・私たちは短い手紙であるヨハネ第2の手紙を学んできましたが、今日のテキストはその終わりの「あいさつ」の部分です。
- ・老齢となった使徒ヨハネは、自分の人生が残り少ないことを知り、この手紙の中で、「真実の愛に生きる」大切さを記しました。当時の社会にも、今の社会にも、聖書を違って解釈し、異端へ導こうとする悪の力は存在しています。
- ・使徒ヨハネは、愛する聖徒へ「真実の愛」に生きる大切さを書きました。それには、どう生きるべきでしょうか。ヨハネは次のように言いました。
  - 1:5 そこで婦人よ、今あなたにお願いします。それは、新しい命令としてあなたに書くのではなく、私たちが初めから持っていた命令です。私たちは互いに愛し合ひましょう。
  - 1:6 私たちが御父の命令にしたがって歩むこと、それが愛です。あなたがたが初めから聞いているように、愛のうちを歩むこと、それが命令です。
- ・私たちもこのみことばのように、神の命令である愛のうちを歩みたいものです。では、この書簡の最後の聖句から、使徒ヨハネの心情を掘り下げてみましょう。2点

### 大切なポイント

#### 1. 第2ヨハネの手紙の目的と内容

##### 1) 愛し合いなさい

- ・ここまでのヨハネの手紙でお分かりのように、イエス・キリストを信じる聖徒は、「互いに愛し合う」ことを勧めました。それは又命令であるとも言いました。
- ・ある時、律法の専門家がイエスに次のように質問しました。

マタイ福音書22章

22:36 「先生、律法の中でどの戒めが一番重要ですか。」

22:37 イエスは彼に言われた。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』

22:38 これが、重要な第一の戒めです。

22:39 『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。

22:40 この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。」

・律法と預言者とは、旧約聖書を示します。つまり、聖書（当時は旧約のみ）全体が、この2つの戒めにかかっていると、イエスは教えられました。

① イエスの教えられた第一の戒めは、

⇒天地を創造された生ける神を愛すること（縦の関係）

② イエスの教えられた第2の戒めは、

⇒隣人を愛すること（横の関係）

・すなわち、愛で結ばれる神と隣人との関係は、縦と横の関係です。

確かに第一の戒めに生きる人は、第二の戒めにも生きる人になります。このように、聖書は愛による関係を教えています。それは現在の私たちにとっても、大変重要なことです。

・「愛し合いなさい」⇒聖書が教える、第一、第二の戒めです。

## 2) この手紙の目的

・ところで、この手紙が書かれた目的をもう一度考えてみましょう。

ヨハネもこの書簡で、「互いに愛し合うこと」を勧めました。そこでこの書簡は「愛の手紙」と呼ばれています。しかしヨハネは、にせ教師に関しては警告しています。教会は当時、巡回伝道師によってキリストの福音が宣べ伝えられていました。

・今の時代のように、教会堂があり、教会には牧会者がいて、色々な制度や規律ができていた時代ではありませんでした。多くが家の教会でした。ですから巡回伝道師によって、人々は霊の糧を得ていました。

・神を信じる人々が次第に増えてきて、大きな町では常駐できる牧会者が立てられ、兄弟姉妹の霊的ケアがなされるようになりました。また教会内では執事が起こされ、やもめや貧しい人々への世話もなされるようになりました。しかし、それは教会の聖徒数がある程度の人数になった群れでした。

・巡回伝道師は支援者や協力者によって、支えられていました。教会は彼らから教えを受け、彼らも巡回伝道者を親切にもてなし支えていました。しかしながら、当時のような社会で間違った教えを持ってきた偽教師もいました。

・その偽教師が、聖徒たちの信仰と教会を大きく揺さぶりました。ある聖徒たち

は信仰から脱落しました。ヨハネはそのような現実の中で、偽教師には警戒しなければならないと警告を発しました。それがこの書簡が書かれた目的でした。

### 3) この手紙の内容

1:5 そこで婦人よ、今あなたにお願いします。それは、新しい命令としてあなたに書くのではなく、私たちが初めから持っていた命令です。私たちは互いに愛し合ひましょう。

1:6 私たちが御父の命令にしたがって歩むこと、それが愛です。あなたがたが初めから聞いているように、愛のうちを歩むこと、それが命令です。

- ここに書かれたように、神を愛するとは神の命令に従い歩むことです。神の命令は、真理に対しては、確固とした姿勢を持ち、互いに愛し合うことです。しかしこの世に、イエス・キリストが人として来られたことを否定し、真理を惑わす者たちがいました。
- 教会はそのような人たちを受け入れたり、彼らと交わったりせず、警戒しなければなりません。それがこのヨハネ第2の手紙の内容です。  
このような初代教会時代（キリスト教会がまだしっかり立てられていなかった時代、教義、制度、秩序等もまだできていなかった時代）、使徒ヨハネは、「互いに愛し合う」ということ、その教えに留まることを教えました。
- そのような時代に教えられた内容は、実は一番大切な重要なことを教えていると思います。つまりキリスト信仰の中心がそこにあります。私たちキリスト者が生きる姿勢が教えられています。

『例 話』 戦火のウクライナ

- オデーサで宣教中の船越真人宣教師によれば、5月28日の礼拝でバプテスマ式を行なわれました。その時、4名（サーシャ、アンドレイ、イリヤ、アリーナ）という名前の方々が、バプテスマを受けたという報告がありました。
- 戦時下で混乱の中、家屋が破壊され、教会堂が破壊され、最近は水力発電ダムも破壊されました。そこも神のみわざは進行しています。非常な困難の中で、西側からの愛の贈り物によって、多くのウクライナ人が心を開いています。  
それはキリスト者の「愛」を感じ取っているからです。

「互いに愛し合ひましょう」

## 2. みことばの前に生きる

### 1) 神を愛すること

- 私たちはここまでで、「神を愛すること」と「神の命令」には繋がりがあ

とがわかりました。神の教えに従順であること、それは神の命令に従うことであり、また神を愛することでもあります。つまり、次のようです。

- ① 神の命令に従い歩むこと ⇒ 「互いに愛し合うこと」
- ② その信仰姿勢は ⇒ 「互いに愛し合うこと」
- ・しかし一方では、異端に対しては、断固として立つことが必要でもあります。

## 2) 愛に生きる聖徒は；

- ・ヨハネは12節で次のように言いました。
- 1:12 あなたがたにはたくさん書くべきことがあります、紙と墨ではしたくありません。私たちの喜びが満ちあふれるために、あなたがたのところに行って、直接話したいと思います。2ヨハネ
- 1:13 選ばれたあなたの姉妹の子どもたちが、あなたによろしくと言っています。2ヨハネ
- ・愛する皆さん！ 「互いに愛し合う」ことは、交わりを喜び楽しむことでもあります。ヨハネは、上記12節のように記しました。
- ⇒喜びが満ちあふれるために、あなたがたのところへ行き、直接話したいと願いました。
- ・愛の関係に置かれるならば、それは紙と墨ではなく、とにかく会って、喜びを分かち合いたいと言いました。それはごく自然なことでしょう。

### 『例話』 迫害時代のルーマニア

- ・1989年12月25日、ルーマニアのチュウセスク独裁政権は崩壊しました。彼は多くのキリスト教会とクリスチャンを迫害しました。そのような時代、私は神の導きによって、ルーマニアに度々入りました。
- ・目的は地下教会訪問、現地クリスチャンとの交わりでした。聖書や信仰書、それに食料品も届けました。社会主義政権下で、国民は貧しい生活を強いられていました。
- ・しかし生ける神を信じる聖徒たちは、実に多数いました。どの町の地下教会を訪ねても、人でいっぱいでした。家に入れないので、中にあった家具を庭に出して集会が開かれたこともありました。それはもし発見されれば、逮捕され、重い罰金刑が課せられた時代でした。
- ・そのような中、私が強く感じたことはルーマニアの聖徒たちは「互いに愛し合う」姿勢を持っていたことです。苦しみの中ではありませんでしたが、キリストにある喜びを分かち合いました。集会が終わっても、人々は深夜になっても帰りませんでした。まだまだ残り、顔と顔を合わせて話し合い、喜びを分かち合っていました。
- ・私には今も忘れられない「思い出」です。神を否定し教会とクリスチャンを迫

害したチュセスク独裁政権は、崩壊しました。彼は逃亡先で銃殺され処刑されました。その生々しい様子が、全世界へニュースとして流されました。

- ・覚えてください。キリストの教会とクリスチャンは、そのような困難下でも、消滅しませんでした。そして今も生きています。聖徒の「交わり」には喜びがありました。⇒「互いに愛し合う」関係にあったからです。

- ・私たちがイエスが教えられた大切な二つの「戒め」、覚えましょう。

22:37 イエスは彼に言われた。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』

22:38 これが、重要な第一の戒めです。

22:39 『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。

22:40 この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。」

## ま と め

主 題：「みことば前に生きる」

—従 順—

- ・私たちはヨハネ第2の手紙をここまで、学んできました。使徒ヨハネは、聖徒たちに「互いに愛し合いましょう」と勧めました。「愛」こそ、私たち生徒が生きる原動力です。
- ・では、この書簡を次の2つの聖句で終わりたいと思います。
  - 1:5 そこで婦人よ、今あなたにお願いします。それは、新しい命令としてあなたに書くのではなく、私たちが初めから持っていた命令です。私たちは互いに愛し合いましょう。
  - 1:6 私たちが御父の命令にしたがって歩むこと、それが愛です。あなたがたが初めから聞いているように、愛のうちを歩むこと、それが命令です。
- ・私たちは神のみことばの前に、従順に歩もうではありませんか。

\* God bless you !